

学年	教科等	主題(教材)名	日時
第2学年	道徳科	がんばったあとのよろこび (なんどでも)	令和8年2月6日(金)

### 1 本時のねらい

努力の大切さについて考える活動をとおして、つらくても苦しくても、努力した先にはやってよかったという喜びや充実感があることに気付き、自分がやるべき勉強や仕事に進んで取り組もうとする心情を育てる。

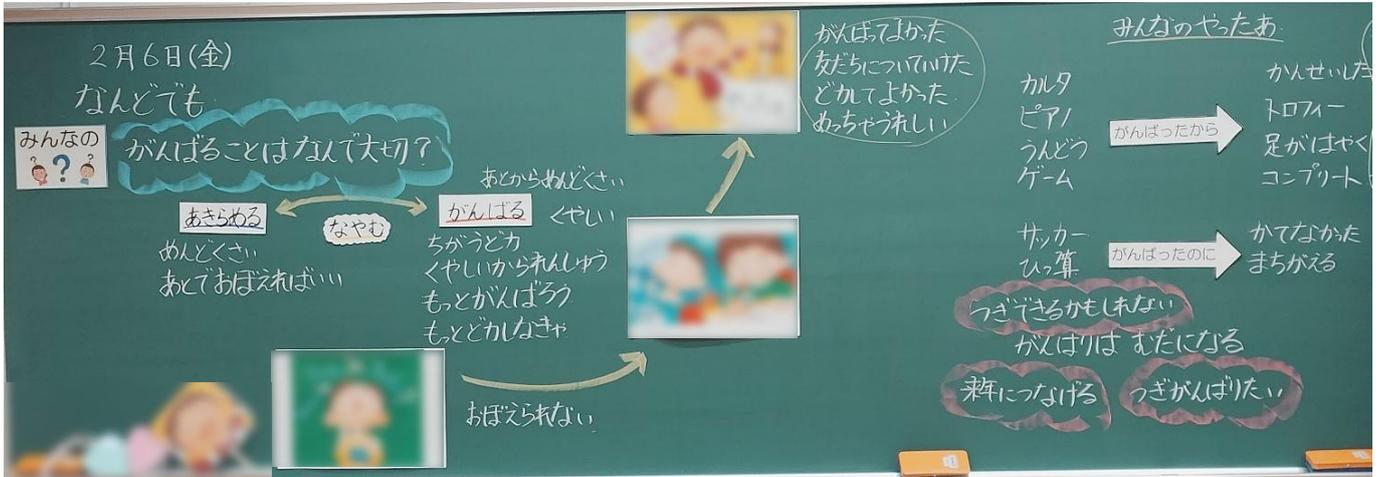
### 2 指導過程

学習活動及び学習内容 (◇は発問)	「自律的に学ぶ」ための手立て
<p>1 道徳的問題を自分事として捉え、考え始める。</p> <p>○ 自分の経験について</p> <p>◇ なぜこんなに頑張ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ よい結果を出したい。</li> <li>・ なんてだろう。 等</li> </ul> <p>○ 問い(例)</p> <p>努力はなぜ大切なのだろう。</p> <p>2 教材に含まれる道徳的価値について考える。</p> <p>○ ぼくのそれぞれの場面での気持ちについて</p> <p>◇ 七の段をなかなか覚えられないときのぼくは、どんな気持ちでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 努力が足りない。もっと頑張らないと。</li> <li>・ もう諦めようかな。 等</li> </ul> <p>◇ 「頑張る」「諦める」で葛藤する僕はどんなことを思っているのでしょうか。</p> <p>(役割演技：頑張る)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 諦めたら覚えられない。 等</li> </ul> <p>(役割演技：諦める)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 頑張っても無理なものは無理。 等</li> </ul> <p>◇ 「思わずジャンプしたぼく」は、どんな気持ちでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ とっても嬉しい。</li> <li>・ 頑張ってよかった。 等</li> </ul> <p>3 教材をとおして考えたことを基に、努力についての価値の理解を深める。</p> <p>○ これまでの自分をふりかえて</p> <p>◇ 2年生でどんなことを頑張ってきましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ かけ算</li> <li>・ 発表</li> <li>・ 漢字</li> <li>・ 係活動</li> <li>・ 鍵盤ハーモニカ 等</li> </ul> <p>◇ 努力したけど上手いかなかったら、その努力は無駄になるのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無駄にはならない。 等</li> </ul> <p>4 学習全体をふりかえり、自己の生き方についての考えを深める。</p> <p>○ 努力することの大切さについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 努力してやり遂げると嬉しくなる。</li> <li>・ 上手いかないことがあっても、諦めずに努力を続けたい。 等</li> </ul>	<p>○ 持久走の練習風景の写真を提示し、「努力はなぜ大切なのだろう。」と問うことで、そのときの気持ちを想起しながら、本時にかかわる道徳的価値を自分事として捉え、自ら「問い」をもつことができるようにする。</p> <p>○ 子どもの意見が前向きな反応に終始する場合は「諦めようという気持ちはないですか。」と問うことで、諦めるという気持ちをもつことができるという人間の弱い気持ちに着目することができるようにする。</p> <p>○ 「頑張る」「諦める」という2つの立場で、役割演技をさせ、それぞれの立場の気持ちを問うことで、多面的・多角的に考えることができるようにする。</p> <p>○ 「思わずジャンプしたぼく」を動作化させ、そのときの気持ちを全体に共有することで、主人公の気持ちに共感するとともに、やってよかったという喜びや充実感を味わえるようにする。</p> <p>○ 2年生で頑張ってきたことを問い、想起させることで、努力について自分の経験と重ねて考えることができるようにする。</p> <p>○ これまでの努力と、その結果としての喜びや充実感をふりかえり、仲間と共有させることで、努力の先に喜びや充実感があることに、実感をもって気付くことができるようにする。</p> <p>○ 努力が必ず成功につながるわけではないということに気付かせ「努力したけど上手いかなかったら、その努力は無駄になるのかな。」と問い、対話を生むことで、努力すること自体に価値があることに気付くことができるようにする。</p> <p>○ ふりかえる際に「今日の気付き」「これまでの自分をふりかえて考えたこと」「これからの自分について考えたこと」という視点を示すことで、日常とつなげてふりかえることができるようにする。</p>

### 3 本時の評価の視点

努力した先には、やってよかったという喜びがあることに気付き、自分がやるべき勉強や仕事に進んで取り組もうとしている。 【道徳的価値の理解を自分自身とのかかわりのなかで深めているか】

### 4 板書



### 5 指導講評

#### 宮崎県教育庁 義務教育課 大竹 進太郎 指導主事

- どのような授業でも、その授業でどのような資質・能力を身に付けたいのかというところが大切である。それによって、中心発問の捉え方も変わってくる。
- 2年生の授業においては、ねらいの内容から、これまで努力してきたことをふりかえるという活動で止めておいてもよかった。広がりすぎるとねらいを焦点化しにくくなると思ったところがあった。
- 附属小学校の特色を生かして、幼・小・中と系統性のある授業づくりをするとよい。学習指導要領を比べて読んでみるとよい。
- 授業では資質・能力を身に付けることが大切である。本授業の手立てが、資質・能力の育成につながっているのかということを検証していくことが大切である。
- 附属小が、今身に付けなければいけない資質・能力は何かを考え、高いレベルで研究をされている。目標と指導と評価を意識しながら、筋の通った授業を意識して、授業づくりを楽しんでほしい。

### 6 考察

#### 【研究内容1：子どもが、自ら「問い」をもつための導入の在り方】

授業の始めに、教室の掲示物等を示しながら、これまで自分たちが頑張ってきたことを想起させた後、持久走大会に向けて練習をしている様子を写真で提示した。「なぜ頑張るのでしょうか。」「頑張りが続かないのですか。」と問い、子どもに自由に発言させた後、昼休み時間にかけて九九の練習を頑張る子どもの写真を提示した。その際「そこまで頑張らないといけないのかな。」と問うたことで、頑張ることの意味について考えようとする子どもの姿が見られた。子どもが自分の言葉で「問い」を立てることはもちろん大切だが、教師の手立てによって、まずは「考えてみたい」と思わせるような導入にすることで、子どもが自分事として捉え、考え始めるということが分かった。

#### 【研究内容2：子どもが、物事を多面的・多角的に考え、納得解を生み出そうとするための手立て】

物事を多面的・多角的に考え、納得解を生み出そうとするための手立てとして、本時では2つの役割演技を取り入れた。1つめは「頑張る」と「諦める」という心の中の葛藤を演じさせた。前向きに「頑張る」という気持ち強い学級の子だからこそ、「諦める」という気持ちを引き出したいという意図で行った。役割演技を行うなかで、「諦める」気持ちに共感する子どもの姿が見られた。2つめは、主人公が努力してやり遂げた後の「やったあ」に続く言葉を即興で言わせるという役割演技を行った。「がんばってよかった」「努力してよかった」「嬉しい」といった発言があり、教材のねらいとする価値理解につながっていた。

動作化については、思わずジャンプしたぶくを演じさせた。子どもが満面の笑顔でジャンプをした姿から、努力した後の喜びを肌で感じ取っていることが十分に伝わってきた。

以上のことから、多面的・多角的に考え、納得解を生み出そうとするための手立てとして、役割演技や動作化は効果的であることが分かった。